

# 700MHz帯を使用する移動通信システムの主な技術的条件等

・700MHz帯を使用する移動通信システムとして導入の可能性がある4つの方式について技術的条件を定める。

		第3.9世代	第3世代/第3.5世代	第3.5世代	
		LTE	W-CDMA/HSPA	HSPA Evolution	DC-HSDPA
周波数帯		700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯、2GHz帯	700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯、2GHz帯	700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯、2GHz帯	700MHz帯、800MHz帯、900MHz帯、1.5GHz帯、1.7GHz帯、2GHz帯
多重化方式／多元接続方式	下り	OFDM及びTDM	CDM及びTDM	CDM及びTDM	CDM及びTDM
	上り	SC-FDMA	CDMA	CDMA	CDMA
空間多重 (MIMO等)		4×4 MIMO	—	2×2 MIMO	— (2×2 MIMOと同等手段有)
変調方式	基地局	BPSK/QPSK/16QAM/64QAM	<データ> BPSK/QPSK/16QAM/64QAM <拡散>BPSK/QPSK	<データ> BPSK/QPSK/16QAM/64QAM <拡散>BPSK/QPSK	<データ> BPSK/QPSK/16QAM/64QAM <拡散>BPSK/QPSK
	移動局	BPSK/QPSK/16QAM/64QAM	<データ>BPSK/QPSK/16QAM <拡散>BPSK/QPSK/HPSK	<データ>BPSK/QPSK/16QAM <拡散>BPSK/QPSK/HPSK	<データ>BPSK/QPSK/16QAM <拡散>BPSK/QPSK/HPSK
占有周波数帯幅の許容値		5MHz/10MHz/15MHz/20MHz	5MHz	5MHz	5MHz
空中線電力の許容値	基地局	定格空中線電力の±2.7dB以内	定格空中線電力の±2.7dB以内	定格空中線電力の±2.7dB以内	定格空中線電力の±2.7dB以内
	移動局	定格空中線電力の最大値は23dBm以下 定格空中線電力の±2.7dB以内 700MHz帯の場合、定格空中線電力の+2.7dB/-4.2dB以内	定格空中線電力の最大値は24dBm以下 定格空中線電力の+1.7dB~-3.7dBの範囲内 700MHz帯の場合、定格空中線電力の+1.7dB~-4.7dBの範囲内 ただし、定格出力が23dBm以下の場合の許容値は±2.7dB 700MHz帯の場合、+2.7dB~-3.7dB	定格空中線電力の最大値は24dBm以下 定格空中線電力の+1.7dB~-3.7dBの範囲内 700MHz帯の場合、定格空中線電力の+1.7dB~-4.7dBの範囲内 ただし、定格出力が23dBm以下の場合の許容値は±2.7dB 700MHz帯の場合、+2.7dB~-3.7dB	定格空中線電力の最大値は24dBm以下 定格空中線電力の+1.7dB~-3.7dBの範囲内 700MHz帯の場合、定格空中線電力の+1.7dB~-4.7dBの範囲内 ただし、定格出力が23dBm以下の場合の許容値は±2.7dB 700MHz帯の場合、+2.7dB~-3.7dB
空中線絶対利得の許容値	基地局	規定しない	規定しない	規定しない	規定しない
	移動局	3dBi以下	3dBi以下	3dBi以下	3dBi以下
最大伝送速度	下り	300Mbps	14.4Mbps	43.2Mbps	43.2Mbps
	上り	75Mbps	5.7Mbps	11.5Mbps	11.5Mbps